

2022年度の主な事業報告

●独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ振興くじ助成事業は下記の通りです。

■第23回ジャパンオープン



8月20日(土)、21日(日)に沖縄県豊見城市民体育館にてフレンドリーカップが開催されました。過去2大会の中止を経ての大会実施で、参加者へのコロナ陰性証明の義務はもちろん、ボールやベンチの消毒といった徹底

した感染拡大防止対策を行い、無事大会を終了しました。開催時期にはまだ全国的にコロナ感染者が多かったため一時は中止の危機もありましたが、沖縄県連盟の20代から30代の若い役員たちが毎月打ち合わせを行い、綿密な計画の下開催にこぎつけることができました。

11月20日(日)には石川県七尾総合市民体育館にてチャンピオンズカップを開催。徹底したコロナ感染拡大防止対策の下、22チームが熱戦を繰り広げました。優勝は男女とも大阪府摂津市にあるクラブチーム、C'mon摂津。ともに10代から20代前半の若いチームで、アジアカップやワールドカップに新風を吹き込む存在になりそうです。

■日本キンボールスポーツ連盟主催大会 あをによしカップ & チャンピオンズカップ

奈良県天理大学柚之内第一体育館にて5月21日(土)に「あをによしカップ」を、翌22日(日)に「チャンピオンズカップ」を開催しました。本来ならビッグイベントのワールドマスターズゲームズ関西2021のオープン競技としての大会を予定しておりましたが、大会再延期に伴い予定を変更しての開催となりました。

●ほかの主な事業・取り組みは下記の通りです。

■となりのキンボーラー



大賞のGOLD FIRE★KAWAGOE

2022年度はwithコロナと言われるようになったものの以前と同じ活動ができるようになったわけではありませんでした。「他のチームやクラブはどんな練習や普及活動をしているのだろう」と、仲間の様子が気になります。そこで、練習方法や普及

活動の紹介レポートに写真を添えて応募してもらい、みんなを「元気」にする、となりのキンボーラーを日本連盟の普及広報委員会が行いました。5団体が応募し、見事、大賞に輝いたのはGOLD FIRE★KAWAGOE。優秀賞は豊岡キンボールスポーツでした。応募された団体はいずれも長年、地道な普及活動を行い、仲間集めにも工夫をしています。コロナ禍でクラブが存続の危機を迎えた時、クラブ発足当時に小学生だった青年がかつてのメンバーに声をかけ、そのメンバーが友人や家族を誘い、今では毎回試合ができるほど盛り返した話は、このスポーツが持つ力や絆を感じさせ、文字通り元気づけられるものでした。



動き回っていましたが、久しぶりの試合を存分に楽しんでいる選手の姿に疲れも癒されていたようです。

22日のチャンピオンズカップでは会場である天理大学の永尾教昭学長が始球式を行い、その後しばらく観戦されていました。キンボールスポーツは天理大学の授業にも取り入れられているため、いつかこの大会に天理大学からもチームを出したいとの声も聞かれました。

■全国指導者講習会・研修会

2022年度は通常の新規指導者講習会に加え、マスターやグラウンドマスターの有資格者対象の移行講習会もオンライン、対面の両方で行いました。コロナ禍であったため対面での講習会は通常よりも少なかったのですが、久しぶりの顔と顔を合わせた講習では講師も受講者も対面講習の良さを再確認したようです。

■ガバナンス強化事業

6月25日(土)に弁護士であり、同志社大学スポーツ健康科学部客員教授でもある富田英司先生を講師に招き、スポーツガバナンス及びコンプライアンスのオンライン研修会を開きました。出席者は日本連盟役員、事務局員の他、都道府県連盟の役員、事務局担当者。事例を交えての説明は分かりやすく、専門家ならではの有意義な研修会となりました。

■全国規模の大会

9月17日(土)に第77回国民体育大会(いちご一会とちぎ国体)でデモンストレーションスポーツの一つとしてキンボールスポーツ大会が下野市石橋体育センターで開催されました。主管の栃木県連盟が感染予防を行いつつ、円滑な大会運営を行いました。

9月19日(祝月)に兵庫県明石中央体育館で予定されていた第76回全国レクリエーション大会2022ひょうご 種目別全国交流大会キンボールスポーツは大型台風が接近していたため中止となりました。2020年に兵庫県で開催予定だった74回大会が延期になったため今回は開催するべきだとの声もありましたが、参加者やスタッフの安全を最優先し、苦渋の決断をいたしました。

■その他の活動

日本連盟の定款を実情に沿ったものにすべく見直しを行い、併せて各種規程を作成しました。また、定款や規程に関しては役員や委員、事務局員でオンライン勉強会を行い、理解を深めました。また、会員の方々と意見交換を行うためにオンラインお茶会を実施しました。コロナ禍で活動がままならぬ中でのクラブ運営や練習会の工夫などの話があり、参加者からはお茶会の定期開催を望む声が出ていました。